

作業療法士養成教育
モデル・コア・カリキュラム
2018

第0版

Ver. 20180814

日本作業療法士協会養成教育委員会

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50

A 作業療法士として求められる基本的な資質・能力

- A-1 プロフェッショナリズム
- A-2 課題解決能力と学ぶ姿勢
- A-3 コミュニケーション能力
- A-4 多職種連携
- A-5 作業療法の質と安全性の管理
- A-6 社会から求められる役割の認識と実践
- A-7 科学的探究
- A-8 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

B 社会と作業療法

- B-1 社会と健康
- B-2 予防と健康管理
- B-3 作業療法における倫理
- B-4 国際化と健康との関連

C 基礎医学（理学療法と共通）

- C-1 生物としての人間理解
- C-2 活動体としての人間理解
- C-3 ライフステージを通じた人間理解
- C-4 人間の生活に影響する疾病・障害の理解
- C-5 薬物による人間の反応の理解

D 臨床医学（理学療法と共通）

- D-1 医学概論
- D-2 臨床医学総論
- D-3 リハビリテーション医療
- D-4 臨床心理学
- D-5 精神障害と臨床医学
- D-6 骨関節障害と臨床医学
- D-7 痛みと臨床医学
- D-8 中枢神経の障害と臨床医学
- D-9 末梢神経・筋の障害と臨床医学
- D-10 小児の障害と臨床医学
- D-11 内部障害と臨床医学
- D-12 がん関連障害と臨床医学
- D-13 皮膚障害と臨床医学
- D-14 老年期障害と臨床医学

E 作業療法実践の基盤となる専門知識

- E-1 基礎作業療法学
- E-2 作業療法管理

F 作業療法実践に必要な専門知識

- F-1 作業療法評価学
- F-2 作業療法治療学
- F-3 地域作業療法学

G 臨床実習

- G-1 基本的態度
- G-2 評価における臨床技能／臨床思考過程
- G-3 治療における臨床技能／臨床思考過程
- G-4 管理運営

H 作業療法学研究

- 1 H-1 作業療法学研究における倫理
- 2 H-2 研究活動の実践
- 3
- 4

1 **A 作業療法士として求められる基本的な資質・能力**

2

3 **A-1 プロフェッショナリズム**

4 人々の健康とウェルビーイングに貢献するという作業療法士の責務を果たすために、対象者の基本的
5 人権を擁護しながら、高い倫理観をもって実践に臨む必要性があることを学ぶ。

6

7 A-1-1) 作業療法士としての責務と役割

8 ねらい：

9 人々の健康とウェルビーイングに貢献する作業療法士としての職責や役割を学ぶ。

10 学修目標：

- 11 ① 人々の健康とウェルビーイングは、人々がもつ価値観や社会的背景によって様々であることを理解し、
12 対象者1人ひとりを尊重できる。
13 ② 作業療法士に求められる役割を説明できる。
14 ③ 作業療法士の法的義務を列挙し、例示できる。
15 ④ 自分の能力の範囲を知り、可能な役割と責務を果たすことができる。

16

17 A-1-2) 基本的人権の理解と擁護

18 ねらい：

19 基本的人権を理解し擁護する必要性を認識でき、クライアント中心の立場に立つ根拠を学ぶ。

20 学修目標：

- 21 ① 基本的人権について説明できる。
22 ② 対象者の人権を擁護する手段・方法（インフォームド・コンセント等）について説明できる。
23 ③ 対象者が自己決定できない場合の対応を説明できる。
24 ④ クライアント中心の立場に立つことができる。

25

26 A-1-3) 倫理原則

27 ねらい：

28 作業療法実践における倫理の重要性を学ぶ。

29 学修目標：

- 30 ① 作業療法をとりまく倫理的課題を説明できる。
31 ② 作業療法に関わる倫理原則を説明できる。
32 ③ 生命や人の尊厳を守ることができる。

33

34

35 **A-2 課題解決能力と学ぶ姿勢**

36 自分の力で課題を見つけ、能動的に必要な知識を身に付け、根拠に基づいた作業療法につなげる能力
37 を獲得する。

38

39 A-2-1) 課題解決能力

40 ねらい：

41 自分の力で課題を発見し、それを解決するための能力を獲得する。

42 学修目標：

- 43 ① 必要な課題を自ら発見できる。
44 ② 自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位付けできる。
45 ③ 課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。
46 ④ 課題の解決に当たり、他者と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。
47 ⑤ 適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。

48

49 A-2-2) 学ぶ姿勢

50 ねらい：

1 能動的な学習者として、様々な情報を客観的・批判的に取捨選択して統合整理し、自分の考えを表現
2 できる能力を獲得する。

3 学修目標：

- 4 ① 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。
- 5 ② 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。
- 6 ③ 適切な助言等を通して自ら学ぶ姿勢を獲得できる。
- 7 ④ 豊かな人間性を育てるために、必要な科目、プログラムを選択し、参加できる。

10 A-3 コミュニケーション能力

11 対象者の心理・社会的背景を踏まえながら、対象者及びその家族等と良好な関係性を築く方法を学ぶ。

13 A-3-1) コミュニケーション

14 ねらい：

15 対象者及びその家族等と良好な人間関係を築くために必要なコミュニケーション能力を身につける。

16 学修目標：

- 17 ① コミュニケーションの目的と技法について説明できる。
- 18 ② 対象者・家族等の話を傾聴し、共感することができる。
- 19 ③ コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。

22 A-4 多職種連携

23 保健・医療・福祉及び患者に関わる全ての人々の役割を理解し、連携する方法を学ぶ。

25 A-4-1) 保健・医療・福祉における連携

26 ねらい：

27 様々な人々と協業するために必要な知識と技術を学ぶ。

28 学修目標：

- 29 ① 多職種連携の意義を説明できる。
- 30 ② 他の職種の役割を説明できる。
- 31 ③ 保健・医療・福祉における多職種連携のあり方を具体的に説明できる。
- 32 ④ 様々な人々との協働を通して、保健・医療・福祉の諸課題に対処できる。

35 A-5 作業療法の質と安全性の管理

36 良質な作業療法の提供に向けて、作業療法の質保証とともに安全性を管理するための基盤を学ぶ。

38 A-5-1) 作業療法の質の保証

39 ねらい：

40 良質な作業療法の提供に向けて、作業療法の質を管理し保証するための基盤を学ぶ。

41 学修目標：

- 42 ① 良質な作業療法の提供に向けて、作業療法の質を管理し保証していくことの必要性を理解できる。
- 43 ② 作業療法の質を管理し保証していくための具体的な方法を説明できる。
- 44 ③ 作業療法の質を管理し保証していくための活動に参画できる。

46 A-5-2) 安全性の管理

47 ねらい：

48 日常的に起こる可能性がある医療上の事故等（インシデントを含む）やリスクを認識し、より安全な
49 作業療法の提供方法を学ぶ。

50 学修目標：

- 1 ① 作業療法における安全性の確保の必要性を説明できる。
2 ② 作業療法における安全性の確保のための対応策を実施できる。
3 ③ 作業療法における安全性を向上させるための活動に参画できる。
4 ④ 自身の体調管理を行うと共に、知識及び技能を見極め、能力の範囲に応じて他者の支援を仰ぐことの
5 重要性を理解できる。
6
7

8 A-6 社会から求められる役割の認識と実践

9 社会から求められる役割を果たすことにより、地域・国際社会に貢献する方法を学ぶ。

10 A-6-1) 社会における作業療法士の役割

11 ねらい：

12 保健・医療・福祉等の多様な場で求められる作業療法士の役割について学ぶ。

13 学修目標：

- 14 ① 作業療法士が活躍する多様な場とそこでの役割を理解できる。
15 ② 地域社会の変化、保健・医療・福祉の動向を踏まえ、今後の作業療法士に求められる役割や責任につ
16 いて考察できる。
17

18 A-6-2) 国際社会への貢献

19 ねらい：

20 国際社会における作業療法の現状と課題を理解し、実践するための基礎的素養を身に付ける。

21 学修目標：

- 22 ① 国際社会における作業療法の課題を理解し、説明できる。
23 ② 多様な文化的背景をもつ対象者の生活支援に必要な能力を理解できる。
24 ③ 国際社会への貢献の意義を理解している。
25 ④ 英語をはじめとした異なる言語に対応することができる。
26
27
28

29 A-7 科学的探究

30 作業療法学研究の必要性を十分に理解し、研究成果が作業療法実践の根拠となることを学ぶ。
31

32 A-7-1) 作業療法学における研究の必要性和意義

33 ねらい：

34 作業療法学における研究の必要性和意義を学ぶ。

35 学修目標：

- 36 ① 作業療法学における研究の必要性和意義を説明できる。
37 ② 作業療法の臨床上の疑問を定式化できる。
38 ③ 作業療法実践の根拠となる研究成果と作業療法実践への活用例を理解できる。
39 ④ 教科書や論文などから最新の情報を検索・整理統合し、批判的に吟味できる。
40
41

42 A-8 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

43 作業療法の質の向上を目指して、協働するすべての人々と共に研鑽しながら、生涯にわたって自律的
44 に学び続ける。

45 A-8-1) 自己研鑽の必要性和方法

46 ねらい：

47 生涯にわたり自己研鑽を続ける必要性和方法を学ぶ。

48 学修目標：

- 49 ① 生涯にわたる自己研鑽の必要性和方法を説明できる。
50

- 1 ② 生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。
- 2 ③ 実践可能な自己研鑽の方法を検討し、実践できる。
- 3 ④ キャリアパスの構築やキャリア開発の方法について学ぶ。
- 4 ⑤ 周囲の人々と切磋琢磨しながら、作業療法の質の向上に寄与できる。
- 5

1 B 社会と作業療法

2

3 B-1 社会と健康

4

5 B-1-1) 健康の概念

6 ねらい：

7 健康の定義や健康に関連する概念について学ぶ。

8 学修目標：

9 ① 健康の定義について説明できる。

10 ② 健康に関連する概念（生活の質（quality of life<QOL>）、国際疾病分類（International
11 Classification of Disease<ICD>）、国際生活機能分類（International Classification of
12 Functioning, Disability and Health<ICF>）、ノーマライゼーション、サクセスフルエイジング、バ
13 リアフリー、ユニバーサルデザイン、健康寿命）の定義について説明できる。

14 ③ 人の健康行動を理解するために基礎となる理論について説明できる。

15 ④ 健康の社会的決定要因について説明できる。

16

17 B-1-2) 環境と健康

18 ねらい：

19 人々の暮らしを取り巻く環境についての現状や課題と健康への関連について学ぶ。

20 学修目標：

21 ① 環境（物的環境・人的環境）について説明できる。

22 ② 物的環境（大気・水・土壌等）の現状や課題と健康への関連について説明できる。

23 ③ 人的環境（専門職・非専門職、家族友人等）と生活や健康との関連について理解できる。

24

25 B-1-3) 生活・ライフスタイルと健康の関連

26 ねらい：

27 多様な生活・ライフスタイルをもつ人を理解し、その人にとって健康な生活の在り方を考えるための
28 基礎となる生活と健康の関連について学ぶ。また人が健康行動をとることができるように支援するた
29 めに必要な行動科学・社会科学に関連する知識について学ぶ。

30 学修目標：

31 ① ライフスタイルの背景にある文化を理解し、多様なライフスタイルを理解できる。

32 ② 栄養・食生活、身体活動・運動、休養と健康の関連について説明できる。

33 ③ ストレスの原因と健康への関連について説明できる。

34 ④ 嗜癖行動（喫煙、飲酒、ギャンブル等）の健康への関連について説明できる。

35 ⑤ 生活習慣や労働に関連づけた疾病の概念や、政策（生活習慣病の定義、プライマリケア・ヘルスプロ
36 モーション、国民健康づくり運動、健康寿命の延伸、健康増進法）について説明できる。

37 ⑥ 個人のライフスタイルについて健康の側面からアセスメントする重要性について理解できる。

38 ⑦ ソーシャルキャピタルの概念と人々の暮らしや健康との関連について説明できる。

39 ⑧ 人の行動変容支援に必要な基礎理論（心理学、行動科学）について理解できる。

40 ⑨ 生活・ライフスタイルと健康の関連には遺伝的多様性が関係していることを理解できる。

41

42 B-1-4) 社会の動向と保健・医療・福祉制度

43 ねらい：

44 作業療法を取り巻く社会の動向や特性について学ぶ。健康と生活の支援に必要な保健・医療・福祉制
45 度について学ぶ。

46 学修目標：

47 ① 社会の動向や特性（少子高齢社会、多死社会）を説明できる。

48 ② 日本における社会保障制度の変遷と特徴について説明できる。

49 ③ 社会保障制度の種類（社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生、医療等）について説明できる。

50 ④ 社会保険（医療保険、年金保険、労災保険、雇用保険、介護保険）について説明できる。

- 1 ⑤ 公衆衛生及び医療（感染症法、労働基準法、学校保健法、医療法、健康保険法等）について説明でき
2 る。
3 ⑥ 保健と医療と福祉の動向と対策（生活習慣病、母子保健、学校保健、高齢者の保健・医療・福祉制度、
4 認知症、障害児・者施策、精神保健、歯科保健、感染症、がん、難病、職域での保健）について説明
5 できる。

6
7 B-1-5) 疫学・保健医療統計

8 ねらい：

9 根拠に基づく作業療法を提供するための基礎となる疫学と保健統計について学ぶ。

10 学修目標：

- 11 ① 人口統計（人口静態、人口動態）を説明できる。
12 ② 日本人の健康に関する指標や受療状況について説明できる。
13 ③ 健康障害とリスクについて説明できる。
14 ④ データの記述と要約（記述統計を含む）ができる。
15 ⑤ 主要な確率分布を説明できる。
16 ⑥ 正規分布の母平均の信頼区間を計算できる。
17 ⑦ 基本的な仮説検定の構造を説明できる。

18
19 B-1-6) 統計手法の適用

20 ねらい：

21 医学、生物学でよく遭遇する標本に統計手法を適用するときを生じる問題点、統計パッケージの利用
22 を含めた具体的な扱い方を修得する。

23 学修目標：

- 24 ① 2群間の平均値の差を検定できる（群間の対応のあり、なしを含む）。
25 ② パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違いを説明できる。
26 ③ カイ2乗検定法を実施できる。
27 ④ 一元配置分散分析を利用できる。
28 ⑤ 2変量の散布図を描き、回帰と相関の違いを説明できる。
29 ⑥ 線形重回帰分析、多重ロジスティック回帰分析と交絡調整を概説できる。

30
31 B-1-7) 根拠に基づいた作業療法

32 ねらい：

33 臨床現場での意思決定において、入手可能な最善の知見を用い、適切な意思決定を行うための方法を
34 身に付ける。

35 学修目標：

- 36 ① 根拠に基づいた医療<EBM>の5つのステップを列挙できる。
37 ② Patient, population, problem, intervention (exposure), comparison, outcome <PICO (PECO)>
38 を用いた問題の定式化ができる。
39 ③ 研究デザイン（観察研究（記述研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究）、介入研究（臨床研
40 究、ランダム化比較試験）、システマティックレビュー、メタ分析（メタアナリシス））を概説できる。
41 ④ データベースや二次文献からのエビデンス、診療ガイドラインを検索することができる。
42 ⑤ 得られた情報の批判的吟味ができる。
43 ⑥ 診療ガイドラインの種類と使用上の注意を列挙できる。
44 ⑦ 診療ガイドラインの推奨の強さについて違いを説明できる。

45
46 B-1-8) 自然災害と健康

47 ねらい：

48 自然災害が及ぼす健康への影響を理解する。

49 学修目標：

- 50 ① 自然災害時に生じる健康課題について説明できる。

- 1 ② 自然災害時の避難所における健康課題について説明できる。
2 ③ 復興支援期における健康課題について説明できる。
3 ④ 復興支援期における生活課題について説明できる。

4
5

6 B-2 予防と健康管理

7 疾病や外傷の予防の重要性が示されている。作業療法士においても予防の面での関わりが求められる
8 ようになってきており、予防作業療法に通じる疾病予防や健康管理のあり方について学ぶ。

9

10 B-2-1) 予防の概念

11 ねらい：

12 予防の概念について理解する。

13 学修目標

- 14 ① 第一次予防について説明できる。
15 ② 第二次予防について説明できる。
16 ③ 第三次予防について説明できる。

17

18 B-2-2) ライフスタイルと行動変容

19 ねらい：

20 ライフスタイルアセスメントと行動変容の実際について理解する。

21 学修目標

- 22 ① ライフスタイルアセスメントについて説明できる。
23 ② 行動特性としてのコンプライアンスについて説明できる。
24 ③ 行動特性としてのアドヒアランスについて説明できる。
25 ④ 行動変容の段階について説明できる。

26

27 B-2-3) 指導方法

28 ねらい：

29 予防における個別指導と集団指導について理解する。

30 学修目標

- 31 ① 個別指導のポイントについて説明できる。
32 ② 集団指導のポイントについて説明できる。

33

34

35 B-3 作業療法における倫理

36

37 B-3-1) 倫理規範と実践

38 ねらい：

39 保健・医療・福祉システムが進展する中で、倫理に関する知識について学び、生命、人の尊厳を学ぶ。

40 学修目標：

- 41 ① 生命倫理、医療倫理、臨床倫理等の関連領域の理論の動向が理解できる。
42 ② 医療・作業療法における倫理に関する規範・原則や指針（倫理の原則、倫理指針、日本作業療法士協
43 会の倫理綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート、ニュルンベルク綱領）について説明できる。
44 ③ 医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について説明できる。
45 ④ 医療や作業療法の現場における倫理的課題と解決方法について説明できる。

46

47 B-3-2) 保健医療における個人情報

48 ねらい：

49 保健医療における個人情報の適切な利用・管理について学ぶ。

50 学修目標：

- 1 ① 保健医療における個人情報の取り扱いとセキュリティーについて説明できる。
2 ② 個人情報保護や守秘義務に関する法規について説明できる。
3 ③ 多職種間での情報共有時の配慮について説明できる。
4 ④ 情報の開示に関する法的根拠と注意点を説明できる。

5
6

7 B-4 国際化と健康との関連

8 ねらい：

9 国際社会における医療の現状と課題について学ぶ。

10 学修目標：

- 11 ① 国際化の動向と保健・医療における課題について説明できる。
12 ② 国際的視野で作業療法の対象（在留外国人、在外日本人等）への配慮について説明できる。
13 ③ 日本の医療の特徴を理解し、国際社会への貢献について考えることができる。

14
15

1 **C 基礎医学（理学療法と共通）**

2 様々な側面から人間を理解する上で、また、作業療法の対象疾患・障害の病態や発生メカニズムを理
3 解する上で不可欠である基礎医学的知識を学ぶ。

4

5 **C-1 生物としての人間理解**

6 生命現象を細胞・分子レベルで理解できるようになるため、生命体の最小単位である細胞や、人間の
7 生命維持活動に必須の三大分子の構造と機能について修得する。さらに、身体を構成する組織・器官を
8 筋・骨格系（運動器）、神経系、内臓諸器官系に大別し、これらの構造と機能について学ぶ。

9

10 C-1-1) 細胞

11 ねらい：

12 細胞の構造と機能について理解する。

13 学修目標：

- 14 ① 細胞の基本的な構造と機能について説明できる。
15 ② 細胞周期と細胞分裂について説明できる。
16 ③ 細胞死の種類とその基本的なメカニズムについて説明できる。

17

18 C-1-2) 三大分子

19 ねらい：

20 三大分子の構造と機能について理解する。

21 学修目標：

- 22 ① アミノ酸とタンパク質の構造と機能について説明できる。
23 ② 糖質の構造と機能について説明できる。
24 ③ 脂質の構造と機能について説明できる。

25

26 C-1-3) 身体を構成する組織と器官

27 ねらい：

28 身体を構成する組織と器官の構造と機能について理解する。

29 学修目標：

- 30 ① 筋・骨格系（運動器）の構造と機能について説明できる。
31 ② 神経系の構造と機能について説明できる。
32 ③ 内臓諸器官系の構造と機能について説明できる。

33

34

35 **C-2 活動体としての人間理解**

36 人間は様々な活動（運動）を営むことができる生物ということを理解できるようになるため、人間の
37 活動（運動）を細分化し、その基本的なメカニズムを学ぶ。

38

39 C-2-1) 関節運動

40 ねらい：

41 関節運動のメカニズムについて理解する。

42 学修目標：

- 43 ① 関節の種類とその構成要素について説明できる。
44 ② 四肢の関節運動のメカニズムについて説明できる。
45 ③ 体幹の関節運動のメカニズムについて説明できる。

46

47 C-2-2) 基本動作

48 ねらい：

49 基本動作のメカニズムについて理解する。

50 学修目標：

- 1 ① 基本動作の種類（寝返り，起き上がり，立ち上がり，歩行）について説明できる。
2 ② 基本動作の発達過程について説明できる。
3 ③ 基本動作のメカニズムについて説明できる。

4

5 C-2-3) 活動（運動）の実行

6 ねらい：

7 活動（運動）を実行するメカニズムについて理解する。

8 学修目標：

- 9 ① 活動（運動）を実行する上で必要となる姿勢制御・運動制御の理論的背景について説明できる。
10 ② 随意運動の制御システムについて説明できる。
11 ③ 運動学習理論について説明できる。
12 ④ 運動学習の過程とそのモデルについて説明できる。

13

14 C-2-4) 活動（運動）の継続

15 ねらい：

16 活動（運動）を継続するメカニズムについて理解する。

17 学修目標：

- 18 ① 活動（運動）を継続する上で必要となる運動耐容能について説明できる。
19 ② 運動による呼吸の変化について説明できる。
20 ③ 運動による循環の変化について説明できる。
21 ④ 運動による代謝の変化について説明できる。

22

23 C-2-5) 摂食嚥下

24 ねらい：

25 摂食嚥下のメカニズムについて理解する。

26 学修目標：

- 27 ① 人間にとっての摂食嚥下の役割と意義について説明できる。
28 ② 摂食嚥下に関わる組織・器官について説明できる。
29 ③ 摂食嚥下を営むメカニズムについて説明できる。

30

31 C-2-6) 活動（行動）と精神・心理機能

32 ねらい：

33 活動（行動）を営む上での精神・心理機能について理解する（モチベーション，抑うつなど）

34 学修目標：

- 35 ① モチベーションや不安・抑うつなどに関連する精神・心理機能のメカニズムについて説明できる。
36 ② 活動（行動）と身体、認知、感情（情動）の関連を説明できる。
37 ③ 活動（行動）による精神・心理機能の変化について説明できる。

38

39

40 C-3 ライフステージを通じた人間理解

41 胎児期，乳・幼児期，小児期，青年期，成人期，老年期といったライフステージを通じた人間理解の
42 ために，それぞれの発達過程を学ぶ。

43

44 C-3-1) 胎生期

45 ねらい：

46 胎生期における発達過程について理解する。

47 学修目標：

- 48 ① 受精のメカニズムについて説明できる。
49 ② 胎児の発達過程での機能・形態的变化について説明できる。

50

1 C-3-2) 乳・幼児期

2 ねらい：

3 乳・幼児期における発達過程について理解する。

4 学修目標：

5 ① 乳・幼児期における運動発達について説明できる。

6 ② 乳・幼児期における精神発達について説明できる。

7 ③ 乳・幼児期における言語発達について説明できる。

8

9 C-3-3) 小児期

10 ねらい：

11 小児期における発達過程について理解する。

12 学修目標：

13 ① 小児期における運動発達について説明できる。

14 ② 小児期における精神発達について説明できる。

15 ③ 小児期における言語発達について説明できる。

16

17 C-3-4) 青年期

18 ねらい：

19 青年期における発達過程について理解する。

20 学修目標：

21 ① 青年期における身体構造の変化について説明できる。

22 ② 青年期における生理機能の変化について説明できる。

23 ③ 青年期に生じる心理・社会的変化について説明できる。

24

25 C-3-5) 成人期

26 ねらい：

27 成人期における発達過程について理解する。

28 学修目標：

29 ① 成人期における身体構造の変化について説明できる。

30 ② 成人期における生理機能の変化について説明できる。

31 ③ 成人期に生じる心理・社会的変化について説明できる。

32

33 C-3-6) 老年期

34 ねらい：

35 老年期における発達過程について理解する。

36 学修目標：

37 ① 老年期における身体構造の変化について説明できる。

38 ② 老年期における生理機能の変化について説明できる。

39 ③ 老年期に生じる心理・社会的変化について説明できる。

40

41 C-3-7) 発達の性差

42 ねらい：

43 人間発達過程における性差について理解する。

44 学修目標：

45 ① 第1次性徴・第2次性徴について説明できる。

46 ② 発達過程における性差について説明できる。

47 ③ ライフイベントの性差について説明できる。

48

49

50 C-4 人間の生活に影響する疾病・障害の理解

1 対象理解のために必要な病因・病態や生体反応について学ぶ。

2
3 C-4-1) 細胞・組織傷害

4 ねらい：

5 細胞・組織傷害（修復・再生も含む）について理解する。

6 学修目標：

- 7 ① 細胞傷害と組織傷害について説明できる。
- 8 ② 壊死とアポトーシスについて説明できる。
- 9 ③ 傷害組織の修復過程ならびに再生過程について説明できる。

10
11 C-4-2) 炎症

12 ねらい：

13 炎症について理解する。

14 学修目標：

- 15 ① 炎症の定義・意義について説明できる。
- 16 ② 炎症反応のメカニズムについて説明できる。

17
18 C-4-3) 感染

19 ねらい：

20 感染について理解する。

21 学修目標：

- 22 ① 感染症の分類について説明できる。
- 23 ② 感染経路について説明できる。
- 24 ③ 感染の予防について説明できる。

25
26 C-4-4) 呼吸器障害

27 ねらい：

28 呼吸器障害について理解する。

29 学修目標：

- 30 ① 呼吸器障害（拘束性、閉塞性、混合性）の違いとそれぞれの病因・病態について説明できる。
- 31 ② 低酸素血症および高炭酸ガス血症の病因・病態について説明できる。
- 32 ③ 酸塩基平衡障害（アルカローシス、アシドーシス）の病因・病態について説明できる。

33
34 C-4-5) 循環障害

35 ねらい：

36 循環障害について理解する。

37 学修目標：

- 38 ① 血行障害（虚血，充血，うっ血，出血）の違いとそれぞれの病因・病態について説明できる。
- 39 ② 血栓症・塞栓症・梗塞の病因・病態について説明できる。

40
41 C-4-6) 栄養・代謝障害

42 ねらい：

43 栄養・代謝障害について理解する。

44 学修目標：

- 45 ① 糖代謝異常の病因・病態について説明できる。
- 46 ② タンパク質・アミノ酸代謝異常の病因・病態について説明できる。
- 47 ③ 脂質代謝異常の病因・病態について説明できる。
- 48 ④ 無機質代謝異常の病因・病態を説明できる。

49
50 C-4-7) 腫瘍

- 1 ねらい：
2 腫瘍について理解する。
3 学修目標：
4 ① 腫瘍の病因について説明できる。
5 ② 腫瘍の分類，グレード，ステージなどについて説明できる。
6 ③ 腫瘍の浸潤・転移・自立性増殖について説明できる。
7 ④ 悪液質について説明できる。

8
9 C-4-8) 廃用症候群

- 10 ねらい：
11 廃用症候群について理解する。
12 学修目標：
13 ① 廃用症候群の病因について説明できる。
14 ② 廃用症候群の分類について説明できる。
15 ③ 代表的な廃用症候群（褥瘡，関節拘縮，筋萎縮など）の病態について説明できる。

16
17 C-4-9) 老年症候群

- 18 ねらい：
19 老年症候群について理解する。
20 学修目標：
21 ① 老年症候群の分類について説明できる。
22 ② 代表的な老年症候群（認知症，フレイル，サルコペニアなど）の病態について説明できる。

23
24
25 **C-5 薬物による人間の反応の理解**

26 薬物の作用機序や投与方法，体内動態に関する基本的事項を理解した上で，対象疾患に関連した薬物
27 療法の考え方について学ぶ。あわせて，薬物の副作用やその有害事象についても学ぶ。

28
29 C-5-1) 薬物の基本

- 30 ねらい：
31 薬物の基本的事項について理解する。
32 学修目標：
33 ① 薬物の作用機序について説明できる。
34 ② 薬物の投与方法について説明できる。
35 ③ 薬物の体内動態について説明できる。

36
37 C-5-2) 薬物療法

- 38 ねらい：
39 対象疾患に対する薬物療法について理解する。
40 学修目標：
41 ① 運動器系疾患に対する薬物療法について説明できる。
42 ② 神経系疾患に対する薬物療法について説明できる。
43 ③ 呼吸・循環器・代謝系疾患に対する薬物療法について説明できる。
44 ④ その他の疾患に対する薬物療法について説明できる。

45
46 C-5-3) 薬物の副作用

- 47 ねらい：
48 薬物の副作用と有害事象について理解する
49 学修目標：
50 ① 薬物の副作用について説明できる。

- 1 ② 薬害について説明できる。
- 2

1 **D 臨床医学（理学療法と共通）**
2 主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。

3
4 **D-1 医学概論**
5 医学の本質を学ぶ。

6
7 D-1-1) 医学の基本
8 ねらい：
9 医学の歴史と倫理について理解する。

10 学修目標：
11 ① 医学の歴史について説明できる。
12 ② 生命倫理について説明できる。
13 ③ 医の倫理（患者の権利，医療者の義務）について説明できる。

14
15 D-1-2) 疾病の概念
16 ねらい：
17 疾病の概要を理解する。

18 学修目標：
19 ① 疾病の定義と分類について説明できる。

20
21
22 **D-2 臨床医学総論**
23 主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。

24
25 D-2-1) 病理学概論
26 ねらい：
27 疾病の原因と身体的変化を理解する。

28 学修目標：
29 ① 病因論（内因・外因を含む）について説明できる。
30 ② 病理学的変化（血行障害，進行性・退行性病変，炎症・感染・免疫・アレルギー，腫瘍・新生物，奇
31 形・遺伝を含む）について説明できる。
32 ③ 生体反応（ホメオスターシス，ストレス）について説明できる。

33
34 D-2-2) 疾病の診断
35 ねらい：
36 疾病診断の概要を理解する。

37 学修目標：
38 ① 問診，身体所見，記録について説明できる。
39 ② 生化学検査について説明できる。
40 ③ 生理検査について説明できる。
41 ④ 画像検査（Xp, CT, MRI, 超音波エコー）について説明できる。

42
43 D-2-3) 疾病の治療
44 ねらい：
45 疾病治療の概要を理解する。

46 学修目標：
47 ① 薬物療法について説明できる。
48 ② 外科的治療について説明できる。

49
50

1 **D-3 リハビリテーション医療**

2 リハビリテーションに関わる障害の評価と治療を学ぶ。

3

4 D-3-1) 総論

5 ねらい：リハビリテーション医学の概要について理解する。

6 学修目標：

7 ① リハビリテーション医学の定義と歴史について説明できる。

8 ② リハビリテーション医学の特徴について説明できる。

9

10 D-3-2) 健康と生活機能の評価

11 ねらい：

12 健康と生活機能に関わる評価について理解する。

13 学修目標：

14 ① 医学的情報（病理・生理・画像診断を含む）の評価について説明できる。

15 ② 心身機能・身体構造の評価について説明できる。

16 ③ 活動の評価について説明できる。

17 ④ 参加の評価について説明できる。

18 ⑤ 背景因子（環境因子および個人因子）の評価について説明できる。

19

20 D-3-3) 機能障害の評価とリハビリテーション

21 ねらい：

22 機能障害とそのリハビリテーションについて理解する。

23 学修目標：

24 ① 運動障害（運動麻痺，筋力低下，持久力低下，筋萎縮，関節拘縮，運動失調，痙縮，固縮を含む）に
25 ついて説明できる。

26 ② 動作の障害について説明できる。

27 ③ 平衡機能障害について説明できる。

28 ④ 呼吸障害について説明できる。

29 ⑤ 循環障害について説明できる。

30 ⑥ 代謝・内分泌障害について説明できる。

31 ⑦ 発達障害について説明できる。

32 ⑧ 構音障害について説明できる。

33 ⑨ 視覚障害について説明できる。

34 ⑩ 聴覚障害について説明できる。

35 ⑪ 高次機能障害について説明できる。

36 ⑫ 痛みについて説明できる。

37 ⑬ 摂食嚥下障害について説明できる。

38 ⑭ 排泄障害について説明できる。

39 ⑮ 精神・心理障害について説明できる。

40 ⑯ 運動学習について説明できる。

41 ⑰ 基本動作練習について説明できる。

42 ⑱ 応用動作練習について説明できる。

43 ⑲ バイオフィードバック療法について説明できる。

44

45 D-3-4) 活動制限の評価とリハビリテーション

46 ねらい：

47 活動制限とそのリハビリテーションについて理解する。

48 学修目標：

49 ① 日常生活活動(ADL)について説明できる。

50 ② 生活関連活動(IADL)について説明できる。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50

D-3-5) 参加制約の評価とリハビリテーション

ねらい：

参加制約とそのリハビリテーションについて理解する。

学修目標：

- ① クオリティ・オブ・ライフ(QOL)について説明できる。
- ② 自立生活について説明できる。
- ③ 就労支援について説明できる。

D-3-6) リハビリテーション計画

ねらい：

リハビリテーション計画について理解する。

学修目標：

- ① リスク管理について説明できる。
- ② 機能的帰結の予測について説明できる。
- ③ リハビリテーションプログラムの立案について説明できる。

D-3-7) リハビリテーションチームと多職種連携

ねらい：

リハビリテーションチームの連携について理解する。

学修目標：

- ① 理学療法について説明できる。
- ② 作業療法について説明できる。
- ③ 言語聴覚療法について説明できる。
- ④ 義肢・装具療法について説明できる。
- ⑤ 神経ブロック療法について説明できる。
- ⑥ 心理的アプローチについて説明できる。
- ⑦ リハビリテーション機器（杖，車いす，座位保持装置，環境制御装置を含む）について説明できる。
- ⑧ 摂食機能療法について説明できる。
- ⑨ 栄養管理について説明できる。

D-3-8) 廃用症候群

ねらい：

廃用症候群とそのリハビリテーションについて理解する。

学修目標：

- ① 疫学について説明できる。
- ② 病理，病態，症候について説明できる。
- ③ 評価，検査（画像，生理検査を含む）について説明できる。
- ④ リハビリテーション医療について説明できる。
- ⑤ その他の治療について説明できる。

D-4 臨床心理学

人の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学ぶ。

D-4-1) 基礎理論

臨床心理学の基礎について理解する。

学修目標：

- ① 歴史について説明できる。
- ② 防衛機制と転移について説明できる。

1 ③ 学習，記憶，行動について説明できる。

2

3 D-4-2) 発達心理および臨床心理

4 ねらい：

5 発達に沿った心理とその心理療法について理解する。

6 学修目標：

7 ① 児童・青年期心理について説明できる。

8 ② 成人・高齢者心理について説明できる。

9 ③ 患者・障害者心理について説明できる。

10 ④ 臨床心理検査法について説明できる。

11 ⑤ 心理療法およびカウンセリングについて説明できる。

12

13

14 D-5 精神障害と臨床医学

15 ねらい：

16 精神障害を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。

17 学修目標：

18 ① 疫学，予後について説明できる。

19 ② 病因，症候について説明できる。

20 ③ 評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。

21 ④ リハビリテーション医療について説明できる。

22 ⑤ その他の治療（精神療法を含む）について説明できる。

23 ⑥ 精神障害の一般的疾患について説明できる。

24 ● 器質性精神障害（症状性を含む）

25 ● 精神作用物質使用による精神および行動の障害

26 ● 統合失調症，統合失調様障害および妄想性障害

27 ● 気分障害（感情障害）（躁うつ病，うつ病を含む）

28 ● 神経症性障害，ストレス関連障害および身体表現性障害

29 ● 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（摂食障害，非器質性睡眠障害を含む）

30 ● 成人のパーソナリティ（人格）および行動の障害

31 ● 精神遅滞（知的障害）

32 ● 心理的発達の障害（広汎性発達障害，特異的発達障害を含む）

33 ● 小児期及び青年期に通常発症する行動および情動の障害（注意欠如・多動性障害など）

34 ● てんかん

35

36

37 D-6 骨関節障害と臨床医学

38 ねらい：

39 骨関節障害を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。

40 学修目標：

41 ① 疫学，予後について説明できる。

42 ② 病因，症候について説明できる。

43 ③ 評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。

44 ④ リハビリテーション医療について説明できる。

45 ⑤ その他の治療について説明できる。

46 ⑥ 骨関節障害の一般的疾患について説明できる。

47 ● 変形性関節症，人工関節置換術後

48 ● 骨折，脱臼，靭帯損傷

49 ● 関節リウマチとその近縁疾患

50 ● スポーツ障害

- 1 ● 脊椎疾患（椎間板ヘルニア，脊椎症を含む）
- 2 ● 腰痛症
- 3 ● 切断（先天奇形を含む）
- 4 ● 関節疾患（肩関節周囲炎，腱板損傷を含む）
- 5 ● 骨粗鬆症
- 6 ● 骨壊死性疾患
- 7 ● 先天異常，系統疾患（骨端症を含む）
- 8 ● 骨軟部腫瘍

11 D-7 痛みと臨床医学

12 痛みを引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。

14 D-7-1) 急性痛

15 ねらい：

16 急性痛の概要とその治療法について理解する。

17 学修目標：

- 18 ① 疫学，予後について説明できる。
- 19 ② 病因，症候について説明できる。
- 20 ③ 評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。
- 21 ④ リハビリテーション医療について説明できる。
- 22 ⑤ その他の治療について説明できる。

24 D-7-2) 慢性疼痛

25 ねらい：

26 慢性疼痛の概要とその治療法について理解する。

27 学修目標：

- 28 ① 疫学，予後について説明できる。
- 29 ② 病因，症候について説明できる。
- 30 ③ 評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。
- 31 ④ リハビリテーション医療について説明できる。
- 32 ⑤ その他の治療について説明できる。
- 33 ⑥ 慢性疼痛の分類について説明できる。
 - 34 ● 一次性慢性疼痛（非特異的腰痛，線維筋痛症などを含む）
 - 35 ● がん性慢性疼痛
 - 36 ● 術後および外傷後慢性疼痛（複合性局所疼痛症候群；CRPS などを含む）
 - 37 ● 慢性神経障害性疼痛（帯状発疹後神経痛，三叉神経痛，視床痛，幻視痛などを含む）
 - 38 ● 慢性筋骨格系痛
 - 39 ● その他の慢性疼痛（慢性頭痛，慢性口腔顔面痛，慢性内臓痛などを含む）

42 D-8 中枢神経の障害と臨床医学

43 ねらい：

44 中枢神経の障害を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。

45 学修目標：

- 46 ① 疫学，予後について説明できる。
- 47 ② 病因，症候について説明できる。
- 48 ③ 評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。
- 49 ④ リハビリテーション医療について説明できる。
- 50 ⑤ その他の治療について説明できる。

- 1 ⑥ 中枢神経の障害の一般的疾患について説明できる。
- 2 ● 脳血管障害（頭蓋内出血，脳梗塞を含む）
 - 3 ● 感染・炎症性疾患（脳炎，髄膜炎，ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉による精神障害を含む）
 - 4 ● 神経変性疾患（Parkinson 病とその関連疾患，脊髄小脳変性症〈SCD〉，運動ニューロン疾患，認
 - 5 知症，多発性硬化症〈MS〉）
 - 6 ● 神経免疫疾患（多発性硬化〈MS〉，Guillain-Barre 症候群〈GBS〉，重症筋無力症〈MG〉）
 - 7 ● 外傷（外傷性脳損傷〈TBI〉，脊髄損傷）
 - 8 ● 腫瘍
 - 9 ● てんかん
 - 10 ● 視覚・聴覚障害
- 11
- 12

13 D-9 末梢神経・筋の障害と臨床医学

14 ねらい：

15 末梢神経・筋の障害を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。

16 学修目標：

- 17 ① 疫学，予後について説明できる。
 - 18 ② 病因，症候について説明できる。
 - 19 ③ 評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。
 - 20 ④ リハビリテーション医療について説明できる。
 - 21 ⑤ その他の治療について説明できる。
 - 22 ⑥ 末梢神経・筋の障害の一般的疾患について説明できる。
 - 23 ● 筋疾患・神経筋接合部疾患（多発性ニューロパチー，筋ジストロフィーなど）
 - 24 ● 外傷（絞扼性神経障害を含む）
 - 25 ● 腫瘍
- 26
- 27

28 D-10 小児の障害と臨床医学

29 ねらい：

30 小児の障害を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。

31 学修目標：

- 32 ① 疫学，予後について説明できる。
 - 33 ② 病因，症候について説明できる。
 - 34 ③ 評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。
 - 35 ④ リハビリテーション医療について説明できる。
 - 36 ⑤ その他の治療について説明できる。
 - 37 ⑥ 小児の障害の一般的疾患について説明できる。
 - 38 ● 脳性麻痺
 - 39 ● 水頭症〈Arnold-Chiari 奇形など〉
 - 40 ● 二分脊椎
 - 41 ● 悪性腫瘍
 - 42 ● 遺伝子病，染色体異常，系統疾患（先天奇形，Down 症候群を含む）
 - 43 ● 自閉症スペクトラム
- 44
- 45

46 D-11 内部障害と臨床医学

47 内部障害を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。

48

49 D-11-1) 呼吸器系疾患

50 ねらい：

1 呼吸器系疾患の概要とその治療法について理解する。

2 学修目標：

- 3 ① 疫学，予後について説明できる。
- 4 ② 病因，症候について説明できる。
- 5 ③ 評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。
- 6 ④ リハビリテーション医療について説明できる。
- 7 ⑤ その他の治療について説明できる。
- 8 ● 呼吸器系疾患の一般的疾患（それぞれの疾患には感染症を含む）
- 9 ● 慢性閉塞性肺疾患（COPD）
- 10 ● 間質性肺炎
- 11 ● 誤嚥性肺炎など

12
13 D-11-2) 循環器系疾患

14 ねらい：

15 循環器系疾患の概要とその治療法について理解する。

16 学修目標：

- 17 ① 疫学，予後について説明できる。
- 18 ② 病因，症候について説明できる。
- 19 ③ 評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。
- 20 ④ リハビリテーション医療について説明できる。
- 21 ⑤ その他の治療について説明できる。
- 22 ⑥ 循環器系疾患の一般的疾患（それぞれの疾患には感染症を含む）について説明できる。
- 23 ● 心臓疾患（心筋梗塞、狭心症）
- 24 ● 大血管疾患（大動脈瘤、大動脈解離）
- 25 ● 末梢動脈疾患

26
27 D-11-3) 内分泌・代謝系疾患

28 ねらい：

29 内分泌・代謝系疾患の概要とその治療法について理解する。

30 学修目標：

- 31 ① 疫学，予後について説明できる。
- 32 ② 病因，症候について説明できる。
- 33 ③ 評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。
- 34 ④ リハビリテーション医療について説明できる。
- 35 ⑤ その他の治療について説明できる。
- 36 ⑥ 内分泌・代謝系疾患の一般的疾患（それぞれの疾患には感染症を含む）について説明できる。
- 37 ● ホルモン機能亢進症、機能低下症
- 38 ● 糖尿病
- 39 ● 肥満症

40
41 D-11-4) 消化器系疾患

42 ねらい：

43 消化器系疾患の概要とその治療法について理解する。

44 学修目標：

- 45 ① 疫学，予後について説明できる。
- 46 ② 病因，症候について説明できる。
- 47 ③ 評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。
- 48 ④ リハビリテーション医療について説明できる。
- 49 ⑤ その他の治療について説明できる。
- 50 ⑥ 消化器系疾患の一般的疾患（それぞれの疾患には感染症を含む）について説明できる。

- 1 ● 肝炎
- 2 ● 腫瘍

3
4 D-11-5) 腎・泌尿器系疾患

5 腎・泌尿器系疾患の概要とその治療法について理解する。

6 学修目標：

- 7 ① 疫学, 予後について説明できる。
 - 8 ② 病因, 症候について説明できる。
 - 9 ③ 評価, 検査 (画像・生理検査を含む), 診断について説明できる。
 - 10 ④ リハビリテーション医療について説明できる。
 - 11 ⑤ その他の治療について説明できる。
 - 12 ⑥ 消化器系疾患の一般的疾患 (それぞれの疾患には感染症を含む) について説明できる。
- 13 ● 腎不全
 - 14 ● 下部尿路疾患

15
16 D-11-6) 生殖器系疾患

17 ねらい：

18 生殖器系疾患の概要とその治療法について理解する。

19 学修目標：

- 20 ① 疫学, 予後について説明できる。
 - 21 ② 病因, 症候について説明できる。
 - 22 ③ 評価, 検査 (画像・生理検査を含む), 診断について説明できる。
 - 23 ④ リハビリテーション医療について説明できる。
 - 24 ⑤ その他の治療について説明できる。
 - 25 ⑥ 消化器系疾患の一般的疾患 (それぞれの疾患には感染症を含む) について説明できる。
- 26 ● 乳がん、子宮がん、卵巣がん
 - 27 ● 前立腺がん

28
29 D-11-7) 血液疾患、自己免疫疾患

30 ねらい：

31 血液疾患、自己免疫疾患の概要とその治療法について理解する。

32 学修目標：

- 33 ① 疫学, 予後について説明できる
 - 34 ② 病因, 症候について説明できる
 - 35 ③ 評価, 検査 (画像・生理検査を含む), 診断について説明できる
 - 36 ④ リハビリテーション医療について説明できる
 - 37 ⑤ その他の治療について説明できる
 - 38 ⑥ 消化器系疾患の一般的疾患 (それぞれの疾患には感染症を含む) について説明できる
- 39 ● 貧血
 - 40 ● 膠原病

41
42
43 D-12) がん関連障害と臨床医学

44 ねらい：

45 がん関連障害を引き起こす主な疾患の病因, 病態生理, 症候, 診断と治療を学ぶ。

46 学修目標：

- 47 ① 疫学, 予後について説明できる
- 48 ② 病因, 症候について説明できる
- 49 ③ 評価, 検査 (画像・生理検査を含む), 診断について説明できる
- 50 ④ リハビリテーション医療について説明できる

- 1 ⑤ その他の治療について説明できる
2 ⑥ がん関連障害の一般的疾患について説明できる
3 ● 肺がん
4 ● 消化器がん
5 ● 乳がん
6 ● 血液がん
7 ● 骨軟部腫瘍
8 ● 脳腫瘍
9 ● 頭頸部がん
10 ● その他腫瘍

11
12 D-13 皮膚障害と臨床医学

13 皮膚障害を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。

14
15 D-13-1) 熱傷

16 ねらい：

17 熱傷の概要とその治療法について理解する。

18 学修目標：

- 19 ① 疫学について説明できる。
20 ② 病理，病態，症候について説明できる。
21 ③ 評価，検査（画像，生理検査を含む）について説明できる。
22 ④ リハビリテーション医療について説明できる。

23
24 D-13-2) 褥瘡・創傷

25 ねらい：

26 褥瘡・創傷の概要とその治療法について理解する。

27 学修目標：

- 28 ① 疫学について説明できる。
29 ② 病理，病態，症候について説明できる。
30 ③ 評価，検査（画像，生理検査を含む）について説明できる。
31 ④ リハビリテーション医療について説明できる。
32 ⑤ その他の治療について説明できる。

33
34 D-14 老年期障害と臨床医学

35 ねらい：

36 老年期障害を引き起こす主な疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。

37 学修目標：

- 38 ① 疫学，予後について説明できる
39 ② 病因，症候について説明できる
40 ③ 評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる
41 ④ リハビリテーション医療について説明できる
42 ⑤ その他の治療について説明できる
43 ⑥ 老年期障害の一般的疾患について説明できる
44 ● 老年症候群（サルコペニアを含む）および虚弱（フレイルを含む）
45 ● 認知症
46 ● うつ状態
47 ● 末梢循環障害
48 ● 誤嚥性肺炎
49 ● 骨粗鬆症，骨折
50 ● せん妄

- 1 ● 摂食嚥下障害
- 2 ● ターミナルケア
- 3
- 4

1 E 作業療法実践の基盤となる専門知識

2

3 E-1 基礎作業療法学

4

5 E-1-1) 作業療法概論

6 ねらい：

7 作業療法の概要を理解し、作業療法を学ぶ上での指針を持つ。

8 学修目標：

9 ① 作業療法の定義について説明できる。

10 ② 作業療法の歴史について説明できる。

11 ③ 作業療法の領域と対象について説明できる。

12 ④ 世界の作業療法について説明できる。

13 ⑤ 作業療法の教育体系について説明できる。

14 ⑥ コンプライアンス・法令違反について説明できる。

15 ⑦ ハラスメントについて説明できる。

16 ⑧ 医療広告ガイドラインについて説明できる。

17 ⑨ 対象者・他職種との利害衝突ならびにコンフリクトマネジメントについて説明できる。

18 ⑩ 作業療法のプロセスについて説明できる。

19 ⑪ 理学療法士及び作業療法士法について説明できる。

20 ⑫ 診療録(カルテ)についての基本的な知識を修得し、問題志向型医療記録(problem-oriented medical record<POMR>)形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。

21 ⑬ 個人情報保護法について説明できる。

22

23

24 E-1-2) 基礎作業学

25 ねらい：

26 作業を治療に用いる際に必要となる基本的な知識と技術を修得する。

27 学修目標：

28 ① 作業について説明できる。

29 ② 作業と運動生理機能との関係について説明できる。

30 ③ 作業と心理機能との関係について説明できる。

31 ④ ライフステージと作業について説明できる。

32 ⑤ 作業分析について説明できる。

33 ⑥ 代表的な作業についての手順が説明できる。

34 ⑦ 代表的な作業の指導ができる。

35 ⑧ 代表的な作業の作業分析ができる。

36

37 E-1-3) 作業療法の理論と枠組み

38 ねらい：

39 作業療法実践の意味と根拠を示す各種理論や関連した枠組みについて理解する。

40 学修目標：

41 ① 人・環境・作業の関係性を説明できる。

42 ② 作業と健康、ウェルビーイング、人権等との関係性を説明できる。

43 ③ 作業行動理論及び作業科学について説明できる。

44 ④ 人の作業プロフィールを作成することができる。

45 ⑤ 作業療法のリーズニングについて説明できる。

46 ⑥ 作業療法の各種モデル(生体力学モデル、運動学習モデル、環境適応モデル、人間作業モデル、カナ
47 ダ作業遂行モデル、感覚統合モデル等)を説明できる。

48 ⑦ 作業療法に関連した各種理論や枠組み(認知行動療法、応用行動分析、精神分析等)を説明できる。

49

50 E-1-4) 生活行為向上マネジメント

1 ねらい：
2 生活行為向上マネジメントの基本的な実施手順について理解する。

- 3 学修目標：
- 4 ① 生活行為向上マネジメントの背景について説明できる
 - 5 ② 生活行為と生活行為の障害について説明できる。
 - 6 ③ 生活行為向上マネジメントのプロセスについて説明できる
 - 7 ④ 生活行為向上マネジメントの各シートの使い方について説明できる。
 - 8 ⑤ 模擬事例を通して、各シートの記載ができる。

9
10

11 E-2 作業療法管理

12 作業療法の職場管理において求められる管理業務の基本，臨床教育の基本について学ぶ。

13
14

14 E-2-1) 作業療法部門管理

15 ねらい：
16 作業療法の部門を管理していく方法について理解する。

- 17 学修目標：
- 18 ① 作業療法の実施とその対価（診療報酬・介護報酬など）について説明できる。
 - 19 ② 作業療法の実施後の診療記録と書類管理（電子カルテなどを含む）について説明できる。
 - 20 ③ 作業療法の実施における他職種との業務調整（処方内容の確認，他職種への申し送り）について説明
21 できる。
 - 22 ④ 作業療法の実施に関わるカンファレンスについて説明できる。
 - 23 ⑤ 作業療法機器の保守点検・安全管理について説明できる。
 - 24 ⑥ 作業療法機器の配置計画（職場環境デザインを含む）について説明できる。
 - 25 ⑦ 人事考課（職員採用・昇格審査など）について説明できる。
 - 26 ⑧ 労務管理（勤務時間・休暇管理など）について説明できる。

27
28

28 E-2-2) 作業療法教育

29 ねらい：
30 臨床実習教育を含めた後進の育成に関する方法を理解する。

- 31 学修目標：
- 32 ① 作業療法士養成教育の歴史について説明できる
 - 33 ② 作業療法士養成教育の内容について説明できる
 - 34 ③ 作業療法士国家試験の出題基準について説明できる
 - 35 ④ 参加型臨床実習について説明できる
 - 36 ⑤ 臨床教育の方法（メンター制，プリセプター制など）について説明できる
 - 37 ⑥ 生涯学習制度について説明できる

38
39

1 F 作業療法実践に必要な専門知識

2

3 F-1 作業療法評価学

4 作業の可能か支援のらめに必要な評価に関する知識と技術を習得する。

5

6 F-1-1) 基礎作業評価学

7 ねらい：

8 疾患・障害を問わず行われる基礎的な評価について学ぶ。

9 学修目標：

- 10 ① 評価の意義と目的について説明できる。
- 11 ② バイタルサイン測定について説明・実施できる。
- 12 ③ 意識レベルについて説明できる。
- 13 ④ 面接・観察について説明・実施できる。
- 14 ⑤ 機能形態計測（四肢長，周径など）について説明・実施できる。
- 15 ⑥ 関節可動域測定について説明・実施できる。
- 16 ⑦ 筋力検査（握力・ピンチ力・徒手筋力検査）について説明・実施できる。
- 17 ⑧ 反射及び筋緊張検査について説明・実施できる。
- 18 ⑨ 感覚・知覚検査について説明・実施できる。
- 19 ⑩ 協調性検査について説明・実施できる。
- 20 ⑪ バランス検査について説明・実施できる。
- 21 ⑫ 上肢機能検査について説明・実施できる。

22

23 F-1-2) 運動器障害作業療法評価学

24 ねらい：

25 運動器障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について学ぶ。

26 学修目標：

- 27 ① 画像評価を含む作業療法評価について説明できる。
- 28 ② 疾患特異的な評価の主たるものを模擬実践できる。
- 29 ● 脊髄損傷
 - 30 ● 末梢神経損傷
 - 31 ● 関節リウマチ
 - 32 ● 骨関節疾患
 - 33 ● 手外科
 - 34 ● 熱傷

35

36 F-1-3) 神経障害作業療法評価学

37 ねらい：

38 神経障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について学ぶ。

39 学修目標：

- 40 ① 画像評価を作業療法評価について説明できる。
- 41 ② 疾患特異的な評価の主たるものを模擬実践できる。
- 42 ● 脳血管障害
 - 43 ● 外傷性脳損傷
 - 44 ● 高次脳機能障害
 - 45 ● 認知症
 - 46 ● 神経変性疾患（パーキンソン病、ALS、脊髄小脳変性症等）
 - 47 ● 神経筋疾患（MS、ギランバレー症候群、重症筋無力症等）
 - 48 ● 嚥下障害

49

50 F-1-4) 精神障害作業療法評価学

- 1 ねらい：
2 精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について学ぶ。
3 学修目標：
4 ① 画像評価を含む作業療法評価について説明できる。
5 ② 疾患特異的な評価の主たるものを模擬実践できる。
6 ● 統合失調症
7 ● 気分障害
8 ● 神経症性障害
9 ● パーソナリティ障害
10 ● 物質依存
11 ● てんかん及びその他の精神障害
12
13

14 F-2 作業療法治療学

15 F-2-1) 身体障害作業療法

- 17 ねらい：
18 身体障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する。
19 学修目標：
20 ① 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。
21 ② 疾患ごとの予後について説明できる。
22 ③ 治療原理について説明できる。
23 ● 運動学習
24 ● 関節可動域の拡大
25 ● 筋力の維持・増強
26 ● 感覚・知覚再教育
27 ● 物理療法の基礎
28 ④ 疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。
29 ● 脊髄損傷
30 ● 末梢神経損傷
31 ● 関節リウマチ
32 ● 骨関節疾患
33 ● 手外科
34 ● 熱傷
35 ● 脳血管障害
36 ● 外傷性脳損傷
37 ● 高次脳機能障害
38 ● 認知症
39 ● 神経変性疾患（パーキンソン病、ALS、脊髄小脳変性症等）
40 ● 神経筋疾患（MS、ギランバレー症候群、重症筋無力症等）
41 ● 嚥下障害
42

43 F-2-2) 内部障害作業療法

- 44 ねらい：
45 内部障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する。
46 学修目標：
47 ① 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。
48 ② 疾患ごとの予後について説明できる。
49 ③ 疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる
50 ● 呼吸器疾患

- 1 ● 循環器疾患
- 2 ● がん
- 3 ● 糖尿病
- 4 ● サルコペニア
- 5 ● 泌尿器疾患

7 F-2-3) 終末期作業療法

8 ねらい：

9 終末期の基本的な作業療法について理解する。

10 学修目標：

- 11 ① 死の概念と定義や生物学的な個体の死を説明できる。
- 12 ② 死に至る身体と心の過程を説明できる。その個別性にも共感配慮できる。
- 13 ③ 人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）での患者とのコミュニケーション、頻
- 14 度の高い苦痛とその対処法・ケアを説明できる。
- 15 ④ 人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）での本人の意思決定、事前指示、延命
- 16 治療、Do not attempt resuscitation <DNAR>、尊厳死と安楽死、治療の中止と差し控えの概念を説
- 17 明できる。
- 18 ⑤ 患者の死後の家族ケア（悲嘆のケア（グリーフケア））を説明できる。
- 19 ⑥ 終末期作業療法について説明できる。

21 F-2-4) 高次脳機能障害作業療法

22 ねらい：

23 高次脳機能障害に対する基本的な作業療法について理解する。

24 学修目標：

- 25 ① 障害特性について説明できる。
- 26 ② 障害ごとの予後について説明できる。
- 27 ③ 障害ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。
 - 28 ● 意識・情動の障害
 - 29 ● 注意の障害
 - 30 ● 記憶の障害
 - 31 ● 認知の障害
 - 32 ● 言語の障害
 - 33 ● 思考の障害
 - 34 ● 行為の障害
 - 35 ● 遂行機能の障害

37 F-2-5) 精神障害作業療法

38 ねらい：

39 精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する。

40 学修目標：

- 41 ① 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。
- 42 ② 疾患ごとの予後について説明できる。
- 43 ③ 疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。
 - 44 ● 統合失調症
 - 45 ● 気分障害
 - 46 ● 神経症性障害
 - 47 ● パーソナリティ障害
 - 48 ● 物質依存
 - 49 ● てんかん及びその他の精神障害

1 F-2-6) 発達障害作業療法

2 ねらい：

3 発達障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する。

4 学修目標：

- 5 ① 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。
6 ② 疾患ごとの予後について説明できる。
7 ③ 疾患ごとの評価と作業療法について説明・模擬実践できる。
- 8 ● 新生児疾患
 - 9 ● 脳性まひ
 - 10 ● 知的発達障害
 - 11 ● 進行性筋ジストロフィー
 - 12 ● 重症心身障害
 - 13 ● 骨関節疾患
 - 14 ● 二分脊椎症
 - 15 ● 自閉スペクトラム症
 - 16 ● 学習症
 - 17 ● 注意欠如・多動症

18
19 F-2-7) 高齢期障害作業療法

20 ねらい：

21 高齢期障害に対する基本的な作業療法について理解する。

22 学修目標：

- 23 ① 障害特性について説明できる。
24 ② 障害ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。
- 25 ● 健康高齢者
 - 26 ● 虚弱高齢者
 - 27 ● 身体障害を持った高齢者
 - 28 ● 精神障害を持った高齢者
 - 29 ● 認知症

30
31 F-2-8) 日常生活活動に関わる作業療法

32 ねらい：

33 日常生活活動に対する基本的な作業療法について理解する。

34 学修目標：

- 35 ① 日常生活活動の概念について説明できる。
36 ② 日常生活活動の評価について説明できる。
37 ③ 活動別の支援について説明・模擬実践できる。
- 38 ● 起居・移動
 - 39 ● 食事
 - 40 ● 整容
 - 41 ● 更衣
 - 42 ● 排泄
 - 43 ● 入浴
 - 44 ● 睡眠・栄養・運動
 - 45 ● 炊事
 - 46 ● 掃除
 - 47 ● 買い物・经济管理
 - 48 ● 交通機関の利用
 - 49 ● 通信
 - 50 ● 趣味活動

- 社会参加

F-2-9) 義肢装具に関わる作業療法

ねらい：

義肢装具に関わる基本的な作業療法について理解する。

学修目標：

- ① 義肢装具に関わる作業療法士の役割について説明できる。
- ② 上肢切断について説明できる。
- ③ 義手の基本構造について説明できる。
- ④ 義手の適合判定について説明できる。
- ⑤ 筋電義手について説明できる。
- ⑥ 下肢切断・義足について説明できる。
- ⑦ 上肢装具について説明できる。
- ⑧ スプリントについて説明・作成できる。
- ⑨ 下肢装具について説明できる。
- ⑩ 頸椎体幹装具について説明できる。
- ⑪ 疾患ごとの装具について説明できる。

- 脳卒中
- 脳性まひ
- 関節リウマチ
- 頸髄損傷
- 骨折
- 腱損傷
- 末梢神経損傷

F-3 地域作業療法学

F-3-1) 地域における作業療法

ねらい：

地域における基本的な作業療法について理解する。

学修目標：

- ① 地域の人々の生活、文化、環境、社会経済構造等、地域の特性を捉える方法について説明できる。
- ② 地域リハビリテーションの概念について説明できる。
- ③ 地域作業療法を支える制度について説明できる。
- ④ 実践の場に応じた作業療法について説明・模擬実践できる。
 - 通所系作業療法
 - 訪問系作業療法
 - 学校作業療法
 - 地域生活移行（精神障害者の地域生活支援）
 - 司法領域における作業療法
 - 行政における作業療法
 - 産業作業療法
 - 災害時の支援

F-3-2) 就労支援領域における作業療法

ねらい：

就労支援領域における基本的な作業療法について理解する。

学修目標：

- ① 職業の定義とキャリア発達について説明できる。

- 1 ② 職業支援に関する理論について説明できる。
2 ③ 障害者の就労制度について説明できる。
3 ④ 就労支援における作業療法の役割について説明できる。
4 ⑤ 作業療法評価について説明・実践できる。
5 ⑥ 障害ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。
6 ● 精神障害
7 ● 身体障害
8 ● 高次脳障害
9 ● 知的障害
10 ● 発達障害

11
12 F-3-3) 住環境整備・支援機器と作業療法

13 ねらい：

14 住環境整備と支援機器に関わる基本的な作業療法について理解する。

15 学修目標：

- 16 ① 建築の基礎について説明できる。
17 ② 住宅改修の基礎技術について説明できる。
18 ③ 福祉用具供給システムについて説明できる。
19 ④ 福祉用具のアセスメントについて説明できる。
20 ⑤ 福祉用具の安全性について説明できる。
21 ⑥ 主たる福祉用具について体験し、適用や選定ができる
22 ⑦ 簡単な自助具を作成できる。
23 ⑧ 福祉用具種別に応じた支援の実際について説明できる。
24 ● 起居・移乗
25 ● 移動
26 ● 入浴
27 ● 更衣
28 ● 排泄
29 ● 食事
30 ● 家事
31 ● 余暇活動
32 ● コミュニケーション

33
34 F-3-4) 予防作業療法

35 ねらい：

36 予防に寄与する基本的な作業療法について理解する。

37 学修目標：

- 38 ① 予防作業療法の目的と意義について説明できる。
39 ② 予防に関連した評価について説明できる。
40 ③ 予防作業療法のプログラムについて説明できる。
41 ④ 自助・共助を促進する方法について説明できる。
42
43

1 **G 臨床実習**

2 臨床実習の到達目標は、臨床実習指導者の指導・監督のもとで、典型的な障害特性を呈する対象者に
3 対して、作業療法士としての、①倫理観や基本的態度を身につける、②許容される臨床技能を実践でき
4 る、③臨床実習指導者の作業療法の臨床思考過程を説明し、作業療法の計画立案ができる、ことである。

6 **G-1 基本的態度**

8 G-1-1) 常識的態度

9 ねらい：

10 職業人としての常識的態度を身につける。

11 学修目標：

- 12 ① 状況に相応しい服装や身なりを整えることができる。
13 ② 状況に相応しい挨拶や自己紹介ができる。
14 ③ 職員に対する礼節のある言葉遣いや態度をとることができる。
15 ④ 患者に対する礼節のある言葉遣いや態度をとることができる。
16 ⑤ 自発的に掃除、整理整頓することができる

18 G-1-2) 責任ある行動

19 ねらい：

20 専門職としての責任ある行動を身につける。

21 学修目標：

- 22 ① 時間および期限を厳守することができる。
23 ② 指導者からの指示を遵守することができる。
24 ③ 守秘義務、個人情報取り扱いを厳守することができる。
25 ④ 指導者へ報告・連絡・相談をすることができる。

27 G-1-3) 自己管理

28 ねらい：

29 自己管理ができる。

30 学修目標：

- 31 ① 自身の生活リズムを管理することができる。
32 ② 自身の行動目標を設定・修正し自己評価することができる。

34 G-1-4) 意欲

35 ねらい：

36 意欲的に取り組む姿勢（探求心・創造性）を身につける。

37 学修目標：

- 38 ① 自身の目標を達成するため、具体的に取り組むことができる。
39 ② 必要に応じて文献や資料を収集し、理解することができる。
40 ③ 必要に応じて質問し、自分の意見を述べるることができる。

43 **G-2 評価における臨床技能／臨床思考過程**

45 G-2-1) 評価計画

46 ねらい：

47 作業療法評価計画を立てることができる。

48 学修目標：

- 49 ① 対象者の疾患に関する一般的特徴（症状・障害）について説明することができる。
50 ② 対象者に必要な評価手段（情報収集・面接・観察・検査測定）を選択できる。

1 ③ 選択した評価手段の目的を説明できる。

2 ④ 選択した評価手段の方法を説明できる

3

4 G-2-2) 評価実施

5 ねらい：

6 情報収集・面接・観察・検査測定ができる。

7 学修目標：

8 ① 対象者・家族に評価計画について説明し、同意を得ることができる。

9 ② 対象者・家族から生活状況を聴取できる。

10 ③ 対象者・家族のニーズを聴取することができる。

11 ④ 記録から対象者に関する情報（心身機能・活動・参加・環境因子・個人因子）を収集できる。

12 ⑤ 他職種から対象者に関する情報（心身機能・活動・参加・環境因子・個人因子）を聴取できる。

13 ⑥ 選択した評価手段を適切に使用することができる。

14 ⑦ 対象者の状態に留意し、安全に遂行することができる。

15

16 G-2-3) 全体像

17 ねらい：

18 評価結果を整理し全体像を把握することができる。

19 学修目標：

20 ① 評価結果を ICF（心身機能・活動・参加・環境因子・個人因子）に分類できる。

21 ② 評価結果の肯定的側面・否定的側面について説明できる。

22 ③ 評価結果の相互（因果）関係を ICF を用いて説明できる。

23 ④ 対応すべき課題を焦点化できる。

24 ⑤ 対象者の予後（将来像）について説明することができる。

25 ⑥ 対応すべき生活課題を列挙することができる。

26 ⑦ 対応すべき生活課題に優先順位をつけることができる。

27

28 G-2-4) 目標

29 ねらい：

30 目標を設定することができる。

31 学修目標：

32 ① リハビリテーション（チーム）目標を説明できる。

33 ② 作業療法の長期目標を説明できる。

34 ③ 作業療法の短期目標を説明できる。

35 ④ 各目標の関連性を説明できる。

36

37 G-2-5) 治療プログラム

38 ねらい：

39 治療プログラムを立案することができる。

40 学修目標：

41 ① 目標に対応した治療プログラムを立案することができる。

42 ② 治療プログラムの目的を説明できる。

43 ③ 治療プログラムの方法を説明できる

44

45

46 G-3 治療における臨床技能／臨床思考過程

47

48 G-3-1) 治療環境

49 ねらい：

50 治療環境の設定ができる。

- 1 学修目標：
2 ① 治療手段に対応した場所の設定ができる。
3 ② 治療手段に対応した器具を準備することができる。
4 ③ 対象者の状態に即した治療時間の設定ができる。

- 5
6 G-3-2) 治療
7 ねらい：
8 治療プログラムを遂行できる。

- 9 学修目標：
10 ① 対象者・家族に治療計画について説明し、同意を得ることができる。
11 ② 選択した治療手段を適切に使用することができる。
12 ③ 対象者の状態に対応し、治療プログラムを変更することができる。

13
14

15 G-4 管理運営

16

- 17 G-4-1) 物品管理
18 ねらい：
19 治療器具・道具を安全に使用し管理ができる。

- 20 学修目標：
21 ① 治療器具・道具の取り扱い方、使用用途を説明できる。
22 ② 治療器具・道具の整理・整頓ができる。

23

- 24 G-4-2) リスク管理
25 ねらい：
26 リスク管理について理解できる。

- 27 学修目標：
28 ① アクシデント・インシデントの原因、予防対策について説明できる。
29 ② 施設内感染防止の必要性・方法について説明できる。

30

- 31 G-4-3) 記録
32 ねらい：
33 記録文書（電子データ含む）の管理が適切にできる。

- 34 学修目標：
35 ① 個人情報の保護に留意した記録ができる。
36 ② 記録の保管・廃棄ができる。

37

- 38 G-4-4) 連携
39 ねらい：
40 記録文書（電子データ含む）の管理が適切にできる。

- 41 学修目標：
42 ① 個人情報の保護に留意した記録ができる。
43 ② 記録の保管・廃棄ができる。

44

- 45 G-4-5) 施設理解
46 ねらい：
47 施設の特徴について理解できる。

- 48 学修目標：
49 ① 地域における当該施設の役割について説明できる。
50 ② 当該施設の各部門について説明できる。

1
2
3

1 **H 作業療法学研究**

2 作業療法学研究の成果は、作業療法実践の根拠や社会における作業療法の必要性を示すことにつなが
3 る。また、作業療法学の体系を構築する基盤となり、作業療法学の専門性の発展に貢献する。

4
5 **H-1 作業療法学研究における倫理**

6 ねらい：

7 作業療法学研究における倫理の必要性と配慮の具体を学ぶ。

8 学修目標：

- 9 ① 研究者倫理（オーサーシップ、研究不正等を含む）について説明できる。
10 ② 研究対象者に対する倫理的配慮について説明できる。
11 ③ 利益相反について説明できる。
12 ④ 研究倫理審査について説明できる。

13
14
15 **H-2 研究活動の実践**

16
17 **H-2-1) 文献的研究の方法**

18 ねらい：

19 研究の成果を解釈し、適用していく方法を学ぶ。

20 学修目標：

- 21 ① 情報リテラシーに基づき、その活用方法を理解できる。
22 ② 研究成果、統計資料、実践報告、有識者の提言等の文献の検索方法を理解し、実践できる。
23 ③ 基本的な研究方法の知識をもち、文献・統計資料等を読み、支援を受けながら成果を解釈できる。
24 ④ ガイドラインについて、その適用と限界を踏まえ、理解できる。
25 ⑤ 文献レビュー等の研究を、指導を受けながら、計画・実施できる。

26
27 **H-2-2) 人を対象とした研究の方法**

28 ねらい：

29 将来的な作業療法研究活動の基盤をつくるため、作業療法学研究の方法を学ぶ。

30 学修目標：

- 31 ① 課題解決のための問題点の抽出、研究計画、実施の一連の過程を理解できる。
32 ② 症例報告やケーススタディ、横断的研究、観察研究、実験研究等の研究を、指導を受けながら、計画・
33 実施できる。
34 ③ 実施した研究の成果等を文章化できる。

35